

## みなとまち新潟 歴史探訪⑩

### 近代的港湾への変貌～新潟築港

問歴史文化課(☎025-226-2584)

河口にある新潟港の難点は、土砂の流入で水深が浅く、大型船が入港できないことでした。そのため、信濃川を改修し、新潟港を安全で近代的な港にすること(築港)は新潟市民の悲願でした。

明治期、さまざまな信濃川河口改修工事が行われたものの、依然として大型船は入港できませんでした。大正になり、河口の浚渫作業と大河津分水工事が進んだことで築港計画が現実化しました。

大正3年、新潟市は沼垂町を合併し、鉄道敷設が容易で工場用地がある沼垂側の竜ヶ島に市営ふ頭を建設することとしました。

大正6年、市による築港工事が始まりましたが、財政難から事業は県に移管さ



れます。その後、鉄道敷設、ふ頭建設、倉庫などの設置を行い、15年3月に県営ふ頭が完成、4月に最初の船が着岸しました。

明治の開港から約60年後、新潟港は近代的港湾に変わりました。この新潟築港は、みなとまち新潟の近代的発展の礎となったのです。